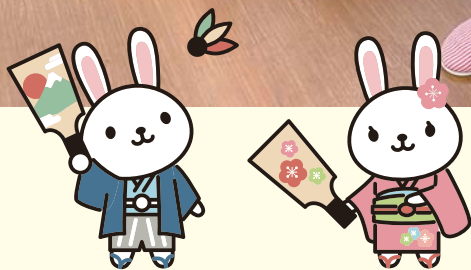


ひとつぶのむぎ

手作り羽子板で羽根つき



職員のお顔で福笑い



明けまして
おめでとうございます。
今年もよろしく
お願いします。

聖書のことば

一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。
しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。(聖書 ヨハネの福音書12章24節)

～ コロナ禍の3年を振り返って ～

第1福祉課 リーダー 四位 俊一

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染者が確認されてから3年が経ち未だに先が見えにくい状況が続いています。そのような中、昨年カタールで行われましたサッカーワールドカップで日本代表はベスト8をかけた戦いでは惜しくもクロアチアに負けてしまいましたが、格上のドイツ、スペインを逆転で破り「ドーハの歓喜」をもたらしてくれたことは、コロナ禍で生活している我々に勇気と感動を与え「自分たちもコロナに負けず頑張ろう」という思いになりました。

さて、令和4年11月25日に行われました全国盲重複障害者福祉施設研究会においてエデンの園ふれあい（以下ふれあい）も発表という形で参加し、ふれあいのコロナ禍での3年間を振り返り発表しました。

発表を通して利用者さんや職員の行動や心の変化を改めて確認することができましたので一部ご紹介したいと思います。

新型コロナウイルスが広がる前は当たり前に出ていた活動、例えば外出や外食、公共施設の利用、ご家族や地域の方々との交流などが感染症対策のため多く制限されるようになりました。事業運営においても職員やその家族が濃厚接触者となり出勤の自粛も増えたことで利用者支援に支障をきたす状況もありました。その様な状況の中で利用者さんは室内で過ごすことも多く「外に行けなくて残念」との声が多く聞かれ、体力面の低下、精神面の不安定さも心配されるようになりました。

コロナ禍での生活があっという間に1年、2年と月日は流れ「コロナ禍だから仕方ない」と考えていた頃から少しずつ「何かコロナ禍でも出来ないのか」「何かできるのではないか」という思いが次第に大きくなり利用者さんと一緒に相談しながらコロナ禍でも「出来る」「楽しめる」ことを探し始めました。

その様な思いの変化からレクリエーションも体を動かすことを目的にゲーム性を取り入れながら棒体操や風船バレー、ボール渡しゲームなどを考えたり、外出や外食に行けない代わりに食べる機会の少ないステーキをふれあいでも焼いて食べたり、ラーメン屋さんでキッチンカーをお願いしてラーメンを食べた

り、町内にあるお店のクレープ、パンケーキ、巷で人気のスターバックスコーヒーなどをテイクアウトしたり工夫するようになりました。

また少しでも外出の気分が味わえるよう「映画館に行こう」「利用者さんの地元を巡ろう」などテーマを決めて模擬的な外出を計画し、地元巡りでは職員がバスの運転手やバスガイドになりきりスクリーンに映像を映しながら利用者さんへ案内も行いました。

地域との交流も少ない中で、活動や行事等でお世話になった業者への感謝とお礼の気持ちを利用者さんと一緒に「お礼カード」を作成しお渡しもしました。業者さんも笑顔で受け取って頂き「またいつでもどうぞ」「SNSにアップしてもいいですか」など言ってもらい、些細ではありますが地域との交流をもつことが出来たのではないかと感じたところでした。

少しずつではありますがコロナ禍で「仕方ない」と諦めていた頃から「何が出来るか」を考え、工夫し、試行錯誤を繰り返していくことで、再び利用者さんの屈託のない笑顔を見ることができ、改めて利用者さんの「楽しみ」や「やりがい」を感じて頂くための日中活動の提供は私たち支援者の役割であることを再確認しました。

今後も様々な環境や状況の変化があると考えられます。その時々課題をみんなで共有し、また支援を振り返ることで新たな取り組みや経験の場を提供出来るように頑張っていきたいと思いました。

ふれあいのスローガン「笑い声が聞こえる場所」を利用者さんと一緒に作って行ければと思うばかりです。今年も1年「ブラボー」な年になりますよう宜しくお願い致します。



それぞれの事業所から

エデンの園 第1福祉課

●エデンの園

クリスマス会を行いました！

12月23日にクリスマス会が行われました。テーマは「平和のクリスマス」との事で、各エリア、赤・緑・白をメインとした装飾を行いました。女性エリアでは利用者の顔写真を印刷しクリスマスツリー型に貼り、男性エリアでは天井からガーランドを吊りました。食事はオードブルにから揚げやポテト、クリスマス仕様のデザートがあり、豪華なメニューを前にして美味しそうに食べられていました。

コロナウイルス感染対策の為、エリア別で放送での会となりましたが、各エリア音楽に合わせて歌を唄われ、笑顔が多く見られ楽しいクリスマス会となりました。

障がい者福祉施設エデンの園 生活支援員 宮 永 康 平



●エデンの園 ふれあい

楽しいクリスマス会となりました！

冬至を過ぎ冬らしく寒さも厳しい頃となり、ふれあいでは12月23日にクリスマス会を行いました。

礼拝では、紙芝居を使ってクリスマスの起源と意義を分かりやすく伝えると利用者さんは話に集中して聞かれていました。昼食は利用者さんのリクエストも取り入れながらメニューを決め、クリスマスランチボックスの形で提供しました。ローストビーフは「初めて食べた」「美味しい」と笑顔で言われ、その他の料理も残さず召し上がっていました。SKBのクリスマスミニコンサートでは日頃の練習の成果を発揮し、最後は利用者さんみんなで演奏に合わせて踊り楽しみました。利用者さんが最も楽しみにしていたクリスマスプレゼントを渡すととても嬉しそうにされていました。ちなみに今年のプレゼントはUNIQLOのヒートテックでした。

今後も利用者さんが楽しく、貴重な体験が出来る行事を提供していきます。

エデンの園ふれあい 生活支援員 中 嶋 啓 雄

●エデンホーム三名

還暦のお祝いをしました

エデンホーム三名では3年前から毎年続けて還暦者が出ています。還暦時には赤いちゃんちゃんこを着用し、豪華弁当とケーキ、ジュースを楽しみながら、入居者全員でお祝いを行っています。同じ入居者の方からお祝いの歌や言葉をもらい、大変嬉しそうにされています。高齢化が進んでいく中で、様々な課題は出てきますが、入居者皆さまが当たり前前の生活と生きがいを持てるように、日々模索していきたいと思っております。

エデンホーム三名 サービス管理責任者 蛭 原 翼

